

札幌市立藤野中学校 学校長式辞

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。何とか皆さんの卒業式を行うことができ、本当に嬉しく思います。本日は、出席できないたくさんの方々から、お祝いのメッセージをいただいております。また、在校生が心を込めて作った折り鶴も、先生方で飾り付けをしました。参加者全員で心温まる卒業式にしましょう。

さて、今、一人ひとりに卒業証書を手渡しました。これは、皆さんが義務教育を修了したことを示す、極めて重みのあるものです。そこに何が書かれているのかを、改めて考えてみてください。まず、「卒業証書」の文字の下には、皆さんの名前が書かれています。名前は、お父さん、お母さんが、真心を込めて皆さんに贈ったこの世で最初の贈り物です。名前には、皆さんに「幸せになりますように」とか、「素晴らし人生を歩みますように」という、願いが込められています。次に、その下にはあなたの生年月日、すなわち誕生日が記されています。誕生日は、皆さんがこの世に生を受けた日であり、間違いなくたくさんの人たちが笑顔に包まれた日でもあります。あなたが生まれてきたという出来事が、ご両親はもちろん、多くの人たちに、喜びと感動を、与えた日なのです。今日、おうちに帰ったら、来られなかった家族の方に、その卒業証書を見せて、感謝の言葉を伝え、これからの自分の生き方について、決意を新たにす日であってほしいと願っています。

三年前、これから始まる中学校生活に思いを馳せ、緊張しながら学校の門をくぐったことが、ついこの間の事のように思い出されることでしょうか。以来三年間、そして、この一年間だけでも、皆さんはひとときわ輝く大きな功績を残してくれました。大きな成果と、たくさんのお思い出を持ち帰った修学旅行。二日目、わらび座での踊り体験。インスタ・ラクターから、「校長先生、藤野中学校を担当できて、本当に良かった。みんな素直で最高」と言われました。改めて、皆さんのことを誇りに思い嬉しくなりました。展示やステージ発表、すべてにおいて、さすが三年生と思わせた学校祭。中でも、迫真の演技とともにエンディングの歌が観る者の心に響いた、劇「伝えたい」。その完成度の高さには驚かされました。そして、合唱コンクール。聴いている人の心を揺さぶりました。真っ直ぐで、素直な歌声。温かく柔らかいハーモニー。曲想を捉え抑揚をつけた、迫力ある全体合唱。見事でした。皆さんの合唱は、保護者や地域の方々、そして一・二年生に大きな感動を与えました。五組。新人生を温かく迎えた歓迎会。友情が深まった駒岡での宿泊学習。全員で協力し見事に演じきった、学校祭での影絵「長靴をはいた猫」。どれもこれも、3年生が後輩を優しく導いてくれました。しかし、今日からは、友だちや仲間、先生方に別れを告げ、自分自身の力で第一歩を踏み出して行くこととなります。

今から三十八年前、とある一人の少年が、大きな夢をかかげて、ブラジルでのサッカー留学を志しました。その時十五才。皆さんと同じ年です。周囲からは「九十九%無理だ」と猛反対されました。すると、彼はこう返しました。「可能性は、1%あるんですね？ じゃあ、僕はその1%に賭けます。」そして彼は一人でブラジルへ旅立ちます。少年の名は、三浦知良（みうら かずよし）。やがて、ブラジルで見事に成功を収め二十二才で日本に戻ります。その後も、日本代表に何度も選ばれ、現在五十三才。現役最年長リーガーです。三浦選手は、特別な才能を持った特別な人なのでしょうか。思うに、彼は他の誰よりも「サッカーが上手くなりたい。ずっとサッカー選手でいたい。」という、強い信念があり、それをずっと持ち続けているのだと思います。それが彼を、突き動かしたのです。「念石をも通す」という言葉がありますが、まさにその通りです。

皆さん、人生は選択・決断・挑戦の連続です。たとえば、それが困難な道であっても、自分の夢や希望を叶えるために、是非、迷わず自分を信じて挑戦してください。卒業生の皆さん、皆さんの素晴らしさは、人を思いやれる、優しさを持っているところです。そんな皆さんが、それぞれの道を力一杯歩み続けてくれることを、心から祈念し、式辞いたします。

札幌市立藤野中学校 PTA会長祝辞

PTA会長の森啓二と申します。

今回新型コロナウイルスの感染防止の観点より、文章にて祝辞を発信させて頂きます。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして保護者の皆様に対し、重ねてお祝いを申し上げます。

さて卒業生の皆さんは、今日を持って中学生ではなくなりません。三年間よく頑張りました。時には喜び笑い・時には悲しみ泣き、思い通り行かず悩んで、誰にも理解してもらえず、苦しい事もあったでしょう。

そんな皆さんに、私達人人は、頑張れ辛抱しろとしか言えず、さらに苦しめていたかもしれません。ほんとうに、御免なさい。

ただ解ってほしい、貴方達を見守っている人達は、間違えなく、自分の事より貴方達の事で、頑張れるのです。

それは私達人人にとって、貴方達の命が大切で、掛け替えのないものだからです。

目には見えないですが、いつも誰かが貴方のことを思っています。どうぞその事を忘れず、勇気をもって進んでください。

皆さんは四月から、それぞれ違った進路へと、進んで行く事になります。これまでの義務教育で感じた事のない、様々な出来事が押し寄せてくるでしょう。

私から皆さんへの言葉として、ケセラセラと言う言葉を贈りたいと思います。ケセラセラと言う言葉は、なるようになる・明日は明日の風が吹く、と言った意味でよく使われる造語です。

今は、アルツハイマーという病気にかかり、私のことも誰だか解らなくなった。私の母親の口癖で、私にとっても、とても大切な言葉となっています。

人は失敗したらどうしようとか、どうしてあんな事をしてしまったんだろうと、不安や後悔を抱えることがよくあります。

だけどこの先、どうなるかわからないし、起こってしまった事は変えられません。どうにもならない事で悩むより、どうにかなる明日の事を考え、今を精一杯生きてください。

ケセラセラ、心配しなくても大丈夫、人生なるようになるし、何とかなるものです。卒業生の皆さんの人生は、まだまだこれから続いて行きます。焦らず急がず、肩の力を抜いて、

時には立ち止まったり、遠回りしてもいいから、ゆっくりと成長していつてくれることを、心から願っています。

保護者の皆さまにおかれましては、三年間、子育てに家事やお仕事と、お忙しい中PTA活動に、多大な御理解と御協力をいただき、誠に有り難う御座いました。

また、ご来賓、地域の皆様におかれましては、ご多忙中にもかかわらずご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

最後になりましたが、今回新型コロナウイルス感染防止の観点より、卒業式が縮小され、卒業生の皆さんや保護者の皆様には、大変残念な事だと思いますが、これも1つの思い出に変わり、一日でも早く、笑って話が出来ようになる事を切に願っております。

今後の子供達の健やかな成長と、皆さまの、明るい未来を祈りつつ、簡単では御座いますが、私からのお祝いの言葉とさせて頂きます。

本日は本当におめでとうございます。

そして立派に成長してくれて有り難う。

札幌市立藤野中学校 在校生代表送辞

冬の厳しい寒さも和らぎ、徐々に春の暖かさが感じられる季節となりました。三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今、みなさんは、この学校での三年間を振り返っていることと思います。多くの人との出会いの中で貴重な体験をし、それぞれの思い出を築き上げてこられたことと思います。常に僕たち後輩の前を歩き、お手本となってくださったみなさんの背中には、僕たちにとってかけがえのないものを残してくださいました。

陸上競技大会では、最初から最後まで、全力で競技に取り組み、仲間を信じ、声援をたえずおおくっていました。その声援が、離れて座っていた僕たち在校生にも届く、熱のこもったものだったことは、今でも強く印象に残っています。お互いを讃えあい、行事を心から楽しむことは、僕たち在校生も見習うべき、大切なことだと思います。

学校祭では、僕たち在校生の発表より、一回りも二回りも完成度の高い、素晴らしいものを見せていただきました。三年生にしかできないステージ発表、展示。時間を忘れて見入ってしまいました。来年は僕たちが、これよりも完成度の高いものをつくらなければいけないと思うと腰が引けますが、みなさんの代より良いものをつくりあげたいと思います。

合唱コンクールでは、三年間を共に過ごしてきた仲間との絆や、力強さの中にある優しさが、みなさんの歌から伝わり、僕たちを感動の渦に巻き込みました。

様々な行事で僕たちを引っ張ってくれたみなさんは、部活動、委員会、日常生活でも常に先頭に立って、リーダーシップを発揮してくださいました。日々の活動を通して、机の上の勉強だけでは得ることができないものをたくさん教えていただきました。

今、こうして振り返ってみますと、みなさんは常に僕たちの目標であり、心の支えでもありました。そんなみなさんも今日で卒業し、これからは僕たちが、今までみなさんが築き上げてきた伝統を受け継ぎ、この藤野中学校を引っ張っていかなければいけません。いつもはすぐ近くにあった大きな背中が、これからは遠く、小さくなってしまいます。そんなことを考えると、今は不安で仕方ありません。ですが、僕たちには頼れる仲間がいます。これからは在校生一同で力を合わせて、藤野中学校をよりよい場所にしていきたいと思えます。

みなさんの行く手には、大きな壁が立ちはだかり、挫けることもあるかと思えます。しかし、そんな時こそ、これまでみなさんが乗り越えてきた困難や、仲間との楽しい思い出、この学び舎で身につけた知識が役に立つことと思います。本校でめぐり会った仲間との「絆」を生涯の宝とし、将来の夢に向かって未来を切り拓いていってください。

結びに、みなさんのご健康と、さらなるご活躍をお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

令和2年3月13日

在校生代表 佐藤 裕紀

